

福山医療生協組合員活動ニュース

NO. 7 2021年 8月 27日 発行: 福山医療生協 組織部

自治体キャラバン（福山市・府中市・神石高原町）

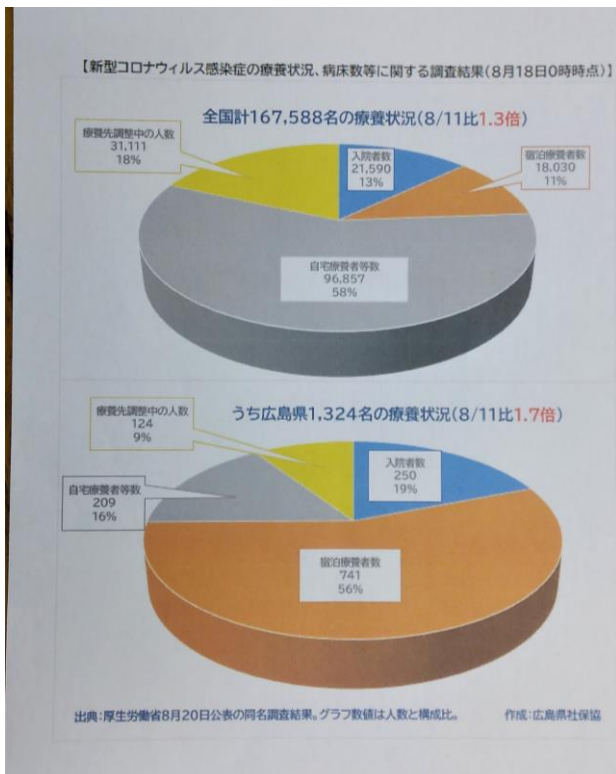
- ① 保健所の拡充設置と医師・看護師・保健師・介護職等の増員を
- ② 公立・公的病院の再編統合をやめることを求める意見書採択を要請



1 : 表議事調査課長（福山市議会）手前に要請

コロナ禍の収束が見えない中、8月26日に、福山市、府中市、神石高原町の3市町と各議長への要請行動に取り組みました。（主催：公立・公的医療機関再編ストップ広島県共同行動連絡会：代表 佐々木敏哉）

27日から広島県に緊急事態宣言が出されることから、どこも対応に追われていました。福山市は市民生活課に要請書を渡すのみになりました。議会は議長不在のため表課長が対応しました（写真1）。藤本県労連事務局次長が資料（写真2）を提示して、8月11日と18日時点の全国と広島県のコロナ感染による療養状況、病床数についての比較（全国1.3倍、広島県1.7倍）と、25日（広島県 2,606人：入院15%、宿泊47%、自宅38%）の実態や保健所機能が感染拡大のために目詰まりを起こし、機動的な対応ができない状況にあり、数年に1度ある感染症の流行を踏まえ、保健所（現在：広島、福山、呉、東広島、廿日市、尾道、三次）の拡充設置と人的確保が急務であること、また、入院ができない状況がある中、



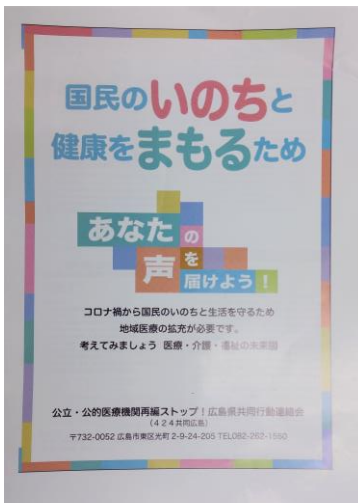
2 : コロナ感染療養割合比較（8/11と8/18）



3 : 棗田議長（府中市議会）中央に要請



4 : 府中市議長要請前に、コロナ情勢レクチャー



5 : いのちのパンフ



6 : 府中天満屋前で「いのちのパンフ」を持って街頭宣伝

公立・公的病院の再編統合がはかられようとしていることを説明し、住民のいのちを守るために、国に対し意見書を上げてほしいと要請を行いました。

また、助産師の沖永さん（福山医療センター）が、コロナ病床でクラスターが発生し、職員・患者が多く感染し、1病棟閉鎖をしたことや、軽度・中度の患者を主に受け入れていること（重度は、福山市民病院が受け入れている）。

昨年の感染で、県から要請があり病床増を行うが、それに伴う職員は、他の病棟からの配置で賄うことになる。昨年は、感染拡大時には、受け入れを断ることもあったが、今年は、赤字のため、可能な限り受け入れているため、職員の多忙化・疲弊。職員の家族の感染を危惧して、ホテルに宿泊することもある。医師・看護師は本当に不足している。いつ職員が倒れてもおかしくない状況の中で働いている。今後、別の感染症が発症した時には、すぐ対応できる医療体制の拡充を強く望みます。と現場の状況を説明しました。

府中市では、棗田議長が対応（写真3）し、検討を約束していただきました。要請の前に府中市要請団にレクチャーを行いました（写真4）。要請後、参加者5名で、府中天満屋前で街頭宣伝を行いました（写真5, 6）。神石高原町は、前日に1人の感染者が出たということで、急遽要請書を渡すのみになりました。

参加者：地区労・西谷、医療生協・柳井、花岡、医労連・藤本、全医労・沖永、府中民商・岡、府中市議・岡田、檜崎